

児童発達支援事業所における自己評価結果

公表:令和 4年 3月 10 日

事業所名 チャイルドサポートみやこ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	7	<ul style="list-style-type: none"> 余裕がない。 感染対策時等で一定の距離を保つ必要が出ると、厳しかったが他の部屋を活用した。 物品の器具の整理整頓を心掛け、物が散らからないようにする。 現在の子どもの人数に対してスペースが狭い、窮屈な印象。 	
	2	職員の配置数は適切である	3	8	<ul style="list-style-type: none"> 利用児に対してのスタッフ人数がギリギリであることが多い。 送迎等で現場が手薄になる 急な病欠や希望休が複数人重なると、時々不足に感じる。看護師は3名が好ましい。 休憩時間の確保のため時間帯によって、人員を増やす等行う。 	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7	4	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の状態の変化に伴う急な対策になりやすい。 構造化はほとんどされていない。 パーテーションで工夫しているが、構造化ではない。 子供たちが自分で動けるような環境にする方が良い。 玄関がバギーの出入り時に狭い。 	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7	4	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策での対応をすると子供の人数に対して部屋が小さく感じる。ホールやリハ室等を利用し対応はできている。 現在与えられた環境は工夫してできるだけいい方向へ変わってきていると思う。室外スロープにしっかりとした屋根が欲しい。 毎日定期的な掃除と日常的に衛生を配慮する。 食事、着替え、昼寝が同じ室内でされている。衛生面でも問題。1人1人が集団の時間の流れで統一することが難しいので環境面での配慮が必要。 汚れものを洗えるスペースが欲しい。 	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	4	<ul style="list-style-type: none"> 特定のスタッフのみの参画になってしまっている。 もう少し日々の清掃、整理整頓が必要かもしれないが、良くなってきていると思う。 日常的に意見交換を行い、定期的ミーティングを行う。 	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9	2		
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	3	<ul style="list-style-type: none"> 公開しているか把握していないが、評価や改善は職員で共有し、保護者へは報告していると思う。 	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	7	<ul style="list-style-type: none"> 把握していない。 正式な外部評価を行っているかは分からない。 	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	10	1	<ul style="list-style-type: none"> 特定の職員のみ研修が多いように感じる。 学べる機会はとてありがたく、今後も参加したいが現場業務を優先したい。 研修内容を職員に知らせ、希望内容の確認、就業中の研修時間を確保。 	
適切な	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	11			<ul style="list-style-type: none"> 定期的に保護者と関係職種によって会議を行う。児の課題や目標について共有する。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	7		
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	8	2	<ul style="list-style-type: none"> 地震の取り組み不足で小部悦支援計画に繋がる部分以外を丁寧に読み込んでいない。支援計画書の「地域支援」を確認したい。 定期的に(3か月毎)各部署の課題、目標を一覧表にする。 ガイドラインなどの内容があることを知らなかった。 	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	10			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	4	<ul style="list-style-type: none"> 個人になっていることが多い。MTGを設けるよう工夫出来ている。 チームで行おうとなっているが、まだ個人の負担が大きいと思う。 	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
支 援 の 提 供	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9			・通年、時期に合った内容を設定。地域の文化や習慣も同時に取り入れる。 ・いろいろ工夫してくれているが、ある程度の固定化は有ってもいいのではと思う。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を 適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	8	2		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	10		・個々の認識も高めるために短時間でも必ず行い、「その日」の振り返りを行う。 ・スバイダーの打合せ	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9	1	・終礼を設けているが、スタッフが揃って落ち着いて、支援について振り返れる時間が取れないことが課題。 ・フィードバックを行っている。 ・時間が確保出来ないことが多い。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	11		・毎日支援記録を作成	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	11			
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	11		・担当間の日程確認を随時行う。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4	4	・具体的にどのほうが、どの機関が当てはまるのか分からない。 ・施設外部とどのように関わっているのかよく分かっていない。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	7	4	・病院とのやり取り、支援学校とのやり取りのみ。もっと広げたい。 ・医療との連携が不十分と思う。 ・自分が直接的に関わる事はあまりないが、相談員がやってくれている印象あり。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	7	3	・自分が直接何かをやり取りをしたことがなく、体制としてどうなっているか理解していない。 ・受診日(医療機関)や内容について保護者へ確認し、伝えてくれるよう依頼する。 ・連絡体制は整えていると思うが、連絡・協力していることはあまりない。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9	2	・送迎時にやりとりしている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	11		・自分は直接やっていないが、担当スタッフや児発官がやっていると思う。 ・経過について解らないことあれば、自ら情報収集を行う。 ・日々の情報交換はしていると思うが、支援の共有等は不足していると思う。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	6	「お茶の水」「リタリコ」の動画のみ。重心児の通所施設と繋がりたい。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	7	4	・うららか保育園のみなので、もっと広げたい。 ・地域の小学校や幼稚園にも在籍し活動・行事に参加する。 ・コロナ禍の為、ほぼなかったが、今後は見込まれる(状況に応じて)	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	1	9	・コロナ禍の為、ほぼなかったが、今後は見込まれる(状況に応じて)	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8	3	・保護者への情報の伝え方を工夫したほうが良い。出来る事出来ない事を伝えるべき。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	9	2	・職員向けのペアレントトレーニングやZOOM参加の出来る講習会を設定し、知識向上を図る。 ・参加する尾後社は少ない気がする。 ・お知らせは出されている印象。	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	5		
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	10	1	・担当外のため行っていない。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8	3		利用時の送迎時に会話を通して把握に努めるが、十分とはいえない。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	7		・コロナで出来なかったが、やりたいと、みんなで計画しているものはある。 ・現在感染対策もあり、対面でのやり取りはできないため、電話・メール等の利用を心掛ける。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	10			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9	1		
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	10	1		スタッフの個人の携帯での写真現場が気になる。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	10	1		・障害のある子の意思疎通に関して、知識が少ない、積極的に学ぶ方が良い。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	6		・コロナの影響があり、地域住民と関わる事が出来ている感がない。 ・なされていると思う
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	10	1		・周知は出来ていない。 ・定期的に訓練を行い、注意点を掲示し、確認する。 ・職員の入れ替わりがあるため、周知の部分に差がある。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	11			持ち出し袋の中身の確認、保管場所の周知徹底する。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	10	1		
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	9	1		・職員間の情報のみとなりやすい為、指示書の確認も自ら心掛ける。 ・現時点でなし。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	11			
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	11			
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7	3		・現在、虐待や身体拘束についてのラインを職員の間で見直している。拘束に当たるものがあれば記載する予定だと思う。 ・現時点でなし。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。